

2024 年 9 月 13 日
日本船主協会 企画部広報室

海運の重要性を学校教育の場で
～紋別市の小学生を対象に出前授業と体験乗船会を実施～

当協会は、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、船舶・海事施設等の見学会、出前授業への協力や各種資料の提供等を実施しています。

今般、北海道運輸局および北海道海事広報協会等と協力し、9 月 12 日（木）に紋別市立紋別小学校（以下、紋別小）の 5 年生 48 名を、9 月 13 日（金）に紋別市立潮見小学校（以下、潮見小）の 6 年生 46 名を対象に、「暮らしを支える海運」と題した出前授業を実施するとともに、潮見小の授業後に開催された砕氷船「ガリンコ号Ⅲ IMERU」への体験乗船を支援しましたので、その模様をお知らせします。

① 出前授業（紋別小と潮見小）

海運が日本の貿易量の 99.6%を輸送しており、生活に必要なものの大部分と密接に係わっていることを説明した後、コンテナ船と自動車船を例に、船が運べる貨物量の多さやコストの低さ、荷役方法などを写真や動画を使って紹介しました。自動車船の荷役の様子（動画）を見た児童たちは、わずか 10 cmほどの間隔で駐車されていく様子に驚いていました。

授業後には、北海道海事広報協会が提供する海運業についてのパネルを熱心に読む児童たちの姿があり、海運業に興味を持った様子でした。



授業の様子（紋別小）



授業後、パネルを読む児童の様子



授業の様子（潮見小）



弊協会提供の資料を手にする様子

② 「ガリンコ号Ⅲ IMERU」の体験乗船

潮見小の児童たちは、学校で弊協会の出前授業を受けた後、バスで紋別港に移動し、砕氷船「ガリンコ号Ⅲ IMERU」への乗船体験をしました。参加した児童は、砕氷船前方に取り付けられたローター（氷を砕くドリル）がしぶきを上げながら回転する様子や、海から見る街の景色に歓声をあげ、楽しんでいる様子でした。

船は港のまわりを一周し、45分ほどで紋別港に戻り、その後は船内で船員の方々によるロープワーク講座が行われました。児童たちは、船員の方の指導のもと「巻き結び」と「もやい結び」に挑戦しました。



体験乗船の様子



ロープワークの様子



（左上写真）氷を砕くための「ローター」

（右下写真）砕氷船「ガリンコ号Ⅲ IMERU」

当協会は、今後も海事関連諸団体などと連携しながら、海事産業をより教育に取り上げていただけるよう広報活動に注力してまいります。

以上